

## 人間総合科学研究科のアドミッション・ポリシー

〔平成19年11月30日  
人間総合科学研究科専攻長会議〕  
改正 平成21年 9月25日  
平成21年10月30日  
平成22年 3月19日  
平成22年 4月23日  
平成22年 5月28日  
改定 平成23年10月23日  
人間総合科学研究科運営委員会

### 1 趣旨

人間総合科学研究科（以下、研究科）は、「人間」に関する基礎から応用までの高度な教育研究を推進することにより、それぞれの固有の学問領域においてさらに高度な研究を計画実行できる研究者、及び「人間」に関して幅広い知識をもち優れた学際研究を計画実行できる研究者、さらには複合的な視点から「人間」をとらえ、さまざまな生き方をしている「人間」に対して柔軟かつ適切な支援を企画実行できる高度専門職業人を養成することを目的とする。

この目的を実現するために、研究科及び各専攻では教育目標を設定するとともに、求める学生像を明確にし、入学者選抜の基本方針を明示することによって、受験生や社会に対する説明責任を果たすこととする。

### 2 研究科

#### (1) 教育目標

研究科は、幅広い国際的な視野と総合的な知識・技能を養うとともに、自立的・創造的な高度の研究能力及び専門実務能力を養うことを目標とする。

#### (2) 求める学生像

研究科では、「人間」あるいは「人間社会」について高い関心を持ち、さまざまな角度からそれを考え、人間自身について解決しようとする意欲がある学生を求める。

#### (3) 入学者選抜の基本方針

研究科は、人間系、体育・芸術系、医学系及び学際系の諸学問領域が連携し、共通の研究対象である「人間」をキーワードとして、幅広く「人間」を研究する研究科である。

入学者選抜においては、こうした研究科の組織特性を生かし、多様性、総合性、国際性を基調とした柔軟かつ弾力的な入学要件、選抜方式あるいは選抜基準を設定する。

具体的には、幅広い地域から多様な留学生や社会人あるいはキャリアパスとしての編入学生を積極的に受入れ、国費・私費留学生への特別の配慮をはじめ、7月期、8月期、10月期、2月期の入試を実施するとともに、推薦入学試験や一般入学試験をはじめ、社会人（特別）選抜入試、昼夜開講制入試といった多様な選抜方式、小論文や面接、実技等を取り入れた多面的な選抜基準を特色としている。このほか、特別な選抜試験として、ダブルメジャープログラムに係る入学試験、医学系における連携大学院入学試験を実施している。

#### (4) 入学者選抜の実施体制

研究科における入学者選抜の実施体制は、研究科長を統括本部長とし、人間系、学際・体芸系、医学系の3つの地区及び東京地区ごとにそれぞれ副研究科長等が地区本部長として責任統括し、各地区の支援室の協力の下で実施することとする。

#### (5) 入試ミスの防止

研究科では、公正な入学者選抜を実施するため、入試ミス防止マニュアルを策定するとともに、各専攻においても具体的なマニュアル等を作成し、入念なチェック体制と点検作業を行うものとする。

### 3 各専攻

別表のとおりとする。

#### 別表 各専攻のアドミッション・ポリシー

##### (14) 専攻名 ヒューマン・ケア科学専攻

教育目標	「ヒューマン・ケア」をキーワードとして、関連する諸科学(教育学、心理学、障害科学、カウンセリング学、保健学、医学、看護学分野)の専門領域による教育と実践実習が展開される。これらを学ぶことを通して、学融的視点から、総合的・多面的ヒューマン・ケアを研究する能力と、これをケアの実践に応用する技術を兼ね備えた研究者・実践者の育成を目指す。
求める学生像	ヒューマン・ケアの問題に対する高い関心と課題解決を志向し、これに関する幅広く、柔軟で高度な専門的知識と研究の修得、課題解決のための技術の修得を目指す、主体的、意欲的學生を求める。
入学者選抜の基本方針	学生の適格性を的確に判断するため、専門的知識、研究課題と研究計画、関心、意欲、態度、これまでの学習経験や履歴を広く検討する。留学生、社会人、他専攻、他研究科からの入学希望者も幅広く受け入れる。障害を伴う学生の受け入れ、対応も積極的に行っている。 筑波大学大学院修士課程又は博士前期課程修了見込み者を対象に内部進学試験を実施する。 また、平成 20 年度から、医師や国家資格を有し医療系の修士課程を修了した学生に対して、本専攻に在籍しながら医学系専攻の課程を履修することにより、博士(ヒューマン・ケア科学)と博士(医学)を取得できるダブルメジャー制度を発足させている。
入学者選抜の実施体制	専攻の指導教員全員で実施する。 広範囲な分野にわたるので、筆記試験および口述試験は希望する分野によりその内容が異なる。 8 月期に 1 次募集を行い、研究指導體制に余力がある場合は、2 月期に 2 次募集を実施する。

##### (17) 専攻名 スポーツ医学専攻

教育目標	本専攻における教育内容はスポーツのための医科学あるいはスポーツによる医科学の基礎および実践の教育と要約できる。前者はスポーツ選手のコンディショニング、スポーツ傷害の予防・治療・リハビリテーションなど、後者は生活習慣病等の予防と運動療法などに関し、高度の研究・実践能力およびその基盤となる豊かな学識を養い、スポーツ医学に関連する領域における高度専門職業人あるいは研究者を養成することを目標としている。
求める学生像	意欲的かつ知的好奇心に富み、スポーツ医学分野における研究者あるいは高度専門職業人として将来の活躍が期待できる学生。
入学者選抜の基本方針	スポーツ医学に関する基礎的素養と標準以上の英語能力を有し、研究意欲・能力に優れ、将来目標の明確な学生を選抜する。留学生に関しては上記条件を満たせば積極的に選抜する。社会人については、上記条件に加え、就学が可能であるかを勘案する。
入学者選抜の実施体制	8 月に 1 年次学生の入学試験(定員 12 名)を行い、2 月に追加募集(8 月入試で定員を充足しない場合)を行っている。

(18) 専攻名 生命システム医学専攻

教育目標	疾患制御医学専攻との一体化教育を取り入れながら、医学全般に関する幅広い科目学修と自立性、コミュニケーション能力、課題発見能力・解決能力を涵養する武者修行学修の組み合わせによる統合的な医学大学院教育を組織的に行なう。「生命システム医学概論」により、専攻における研究活動の総合的な理解を可能にしており、「医学特別演習」、医学特殊研究」、各専門科目により、専門研究分野における先端性を涵養する。「国際実践医学研究特論」により、世界基準で活躍するための国際性を身に付けさせる。「医科学教育実習」では、大学教員に必要な基礎的知識と技能を学ぶ。
求める学生像	ヒトの生命科学の理解を基盤として、医学研究を推進することで人類の未来に貢献する強い意志をもち、自立性、独創性、国際性を重視する専攻の基本理念を理解し、自ら積極的に学修しつづけることができる学生を求めている。
入学者選抜の基本方針	英語能力を評価するための筆記試験と口述試験による専門分野についての能力検定を行なっている。学生自身が作成する研究計画書を提出させ、その内容に沿った口述試験を行うことで、バックグラウンドの異なる受験生にも対応している。試験を日本語および英語で行うことで留学生に対応している。
入学者選抜の実施体制	次年度4月の入学に向けて、8月と2月に一般入試と主に社会人を念頭においた昼夜開講コースの2度の試験を定期的に行っている。これ以外にインターナショナルコース入学者選抜を目的として、海外の連携校で適宜入学試験を実施する。

(20) 専攻名 体育学専攻

教育目標	本専攻は学校や社会における体育・スポーツ・健康の諸問題を現代科学技術の発展を踏まえて合理的に解決し科学できる高度専門教養教育を目標にする。従来の職域対応のカリキュラムに従った高度専門職業人養成に加えて、体育スポーツ系大学院博士後期課程に進学を希望する学生に対しては、応用実践科学としての体育スポーツ学の基礎から応用・実践までの幅広い領域の修学を可能とした研究者養成も行う。
求める学生像	体育・スポーツ・健康領域の諸問題に対して高い関心と問題解決に向けた意欲を持ち、修了後、この方面での研究者あるいは高度専門職業人としての活躍が期待される学生を望む。
入学者選抜の基本方針	体育学領域に関わる資質を持った多様な学生を積極的に受け入れる。一般選抜ならびに社会人特別選抜があり、ともに一般入試と推薦入試の2つの選抜方法を採用している。
入学者選抜の実施体制	7月期に推薦入学試験をそして10月期に一般入学試験を専攻担当教員全員で実施する。

(21) 専攻名 体育科学専攻

教育目標	体育科学は、身体運動現象、身体教育事象、スポーツ等の身体運動文化事象を学際的に研究する総合的な学問分野であるとともに、教育現場やスポーツ指導現場とも密接なつながりをもっている。体育科学専攻では、人文社会科学系、自然科学系、コーチング科学系にわたる6研究教育分野をおき、人間の身体と運動にかかわる諸問題に対し、適切な科学的方法による研究遂行能力と実践現場に即した応用的研究能力をもつ、リーダーたり得る人材の育成をめざす。
求める学生像	スポーツ活動の実践や運動指導の経験を踏まえ、体育・スポーツ・健康に関わる諸現象に対して高い関心をもち、そこで派生する諸問題の解決に向けた研究の推進及び成果の公開、さらに教育者として必要な知識・技能の習得並びに協同して取り組むことに情熱を持つ学生を求める。
入学者選抜の基本方針	語学力および専門知識について、研究遂行上必要となる水準に達しているかどうかを判定の基本方針としている。また、留学生については、採点上の考慮はなされないものの、合格基準の1.5倍の範囲内で指導教員の下承を条件に合格圏内とする内規を運用している。なお、社会人については、現在、特段の配慮を行っていない。
入学者選抜の実施体制	試験内容は外国語（英語）、論文（修士論文等）、口述試験（出願時に提出された博士論文の研究計画書をもとに実施）である。英語試験については、平成27年度入学試験から筆記試験を廃止し、TOIEC又はTOEFLのスコアの提出による客観的な評価を行う。合格基準については、総合得点順を基本としつつ、特定分野に偏らないような配慮をしている。専攻担当教員全員で2月期に入学試験を実施している。

(22) 専攻名 コーチング学専攻

教育目標	トレーニング計画の立案、実行、評価に必要な高度の専門的知識と技能を身に付けさせ、同時にスポーツの指導現場で生じている問題を題材にして研究を行える能力を育成する。
求める学生像	一定レベル以上の競技歴もしくは指導歴を有し、同時に継続的に研究を行う上で必要な能力を身につけている者。
入学者選抜の基本方針	一定のレベル以上の競技歴もしくは指導歴を有し、修士の学位を有する者もしくは個別の入学資格審査により修士の学位と同等以上の学力があると認められた者で、二十四歳に達した者の中から、3年間の課程で博士論文を作成できる能力と将来コーチング学の領域でリーダーとして活躍できる能力を兼ね備えた者を選抜する。
入学者選抜の実施体制	英語及び口述試験を行う。